

経済学と 実経済をつなぐ 「計量経済学」

みなさんは、経済学のひとつの分野である「計量経済学」をご存知でしょうか。本稿では、計量経済学で考えることをご紹介します。

経済学の役割

人は何かを生産したり、サービスを提供したり、稼いだお金で物を買ったりします。人々のこのような活動が作り出す社会的な関係の総称を経済とよびます。

人々はその時の自分の欲求や都合に従って様々な経済的活動を行います。お昼ご飯にラーメンを食べる人もいれば、カレーライスを食べる人もいます。本当はイタリ

岩澤 政宗

Iwasawa Masamune

[研究テーマ]

統計学・計量経済学



アンレストランに行きたいけれど、貯金をするために我慢する人もいるかもしれません。人はそれぞれの事情により経済的な活動を行うため、地域全体や国全体としての経済活動はとても複雑になります。

経済活動はとても複雑であるため、将来の経済状況を完璧に言い当てることはとても困難です。例えば、政府が行う経済政策が、我々の生活にどのような影響を与えるのかを予測することは簡単ではありません。

経済学では、複雑な経済活動の一面を切り抜くために、人や企業の行動を単純化したモデルを作ります。そのモデルを用いた分析から、将来の経済状況を予測したり、政策の効果を考察したりします。複雑な経済活動の全体像を明らかにするというよりは、その一面を切り抜くことで、興味のある事象の関係性を明らかにしようとするのが経済学です。

データを用いた仮説の検証

例えば、経済学のモデルから、「最低賃金と失業率には正の関係がある」という仮説が得られたとします。最低賃金が上がると、失業率が上がるという関係です。経済モデルは人や企業の行動を単純化していますので、モデルから得られた仮説が実際の経済をうまく表しているとは限りません。国や時代背景の違いによって、モデルが実経済をうまく表していることもあれば、そうでないこともありそうです。

ところで、政策立案者が、人々の生活を良くするため



に最低賃金を上げるという政策を施策しているとしましょう。このとき、経済モデルから得られた仮説が正しいのであれば、政策立案者は最低賃金を上げる政策の提案に対して慎重になることでしょう。最低賃金を上げることで失業者が増えてしまうため、「人々の生活を良くする」という目的は達成できないかもしれないからです。そこで、モデルから得られた仮説が正しいかどうかを、実経済から得られたデータを用いて検証することが重要となります。

「最低賃金と失業率には正の関係がある」という仮説は近年の日本において成立しているのでしょうか。近年、最低賃金が全国的に上昇しています。2023年5月の京都府の最低賃金は968円であり、10年前の2013年5月の最低賃金は759円でした¹。ここ10年で25%以上も最低賃金が増えたこととなります。一方、近畿地方の2013年の完全失業率は5.0%²、2023年3月の近畿地方の完全失業率は3.1%³でした。これらの数値を比較すると、最低賃金は上昇しているのに対し、完全失業率は下落していることが分かります。果たしてこの比較を根拠として、仮説が間違っていると言えるでしょうか。

1 <https://jsite.mhlw.go.jp/kyoto-roudoukyoku/content/contents/001245339.pdf>

2 https://www.stat.go.jp/data/roudou/rireki/4hanki/ft/pdf/2013_1.pdf

3 <https://jsite.mhlw.go.jp/osaka-roudoukyoku/content/contents/12.pdf>

経済学と実経済をつなぐ計量経済学

実はこの単純な比較を根拠として、仮説が間違っていると主張することは妥当ではありません。2013年と2023年では、我々をとりまく経済状況が異なります。失業率は最低賃金によってのみ決まるものではなく、そのときの国内外の景気や政治的な情勢など、多くのことに依存して決まります。このため、2013年と比べて2023年の失業率が低いということが、最低賃金のみによって引き起こされたものであると結論づけることは根拠に欠けます。失業率と最低賃金を単純に比較しただけでは、仮説が正しいのかを判断することはできないのです。それではどのような方法を用いれば仮説を検証することができるのでしょうか。このような問題に取り組むのが計量経済学です。

計量経済学では、

- (1) 経済モデルが実経済をうまく表しているか
- (2) 経済モデルから導き出された仮説が正しいか
- (3) 経済政策にどれくらいの効果があったのか

などについて、実経済から得られるデータを用いて検証するための手法を提案し、その手法の性質を明らかにします。このため、計量経済学は、経済学と実経済の橋渡しの役割を担うといえるでしょう。